

PCT

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

## 第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ

☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項

☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ

☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項

☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	7, 9-12, 14-18	有
	請求の範囲	1-6, 8, 13	無
進歩性(IS)	請求の範囲	7	有
	請求の範囲	1-6, 8-18	無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-18	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

- 文献1: JP 10-118632 A (ユニチカ株式会社)  
1998.05.12, 特許請求の範囲, 第4頁左欄第10-42行, 第1-3図(ファミリーなし)
- 文献2: JP 11-244672 A (ダイセン・メンブレン・システムズ株式会社)  
1999.09.14, 第1-3図(ファミリーなし)
- 文献3: JP 4-70187 U (奥川 知子)  
1992.06.22, 実用新案登録請求の範囲, 第2図(ファミリーなし)
- 文献4: JP 5-154481 A (東陶機器株式会社)  
1993.06.22, 図2(ファミリーなし)
- 文献5: JP 11-309310 A (チッソ株式会社)  
1999.11.09, 図2(ファミリーなし)

請求の範囲1-6, 8, 13に係る発明は新規性及び進歩性を有しない。  
文献1には、少なくとも一方が通水性を有する繊維状活性炭を含有する波形状シートと平面状シートを接合して構造体を作製し、該構造体を円柱状に巻き込んで両端部間に透通する透孔を形成した循環水用浄化材が記載されている。  
そして、該波形状シートは積層体であること、該浄化材に銀を用いることも記載されている。

請求に範囲9に係る発明は進歩性を有しない。  
モジュールの隔壁として、流体流入路の内部に凸部を設けたものは文献5に記載されているように周知である。

請求の範囲10及び11に係る発明は進歩性を有しない。  
文献2には、袋状の濾過膜の内部にメッシュ体を配置することが開示されており、モジュールの形状として文献2記載のものを採用することは当業者が容易に想到し得たことである。

請求の範囲12に係る発明は進歩性を有しない。  
文献3には、水浄化用のフィルターの一端のみを通液不能とすることが開示されている。文献1記載の発明において文献3記載の技術を採用することは当業者が容易に想到し得たことである。

請求の範囲14-18に係る発明は進歩性を有しない。  
文献4には、処理槽にモジュールを設け、処理液を一時的に貯留するとともに、処理液を所定液位において外部に流出させることが記載されている。